

日本脳炎ワクチンの接種スケジュールを生後6ヶ月から推奨致します

日本脳炎ワクチンの接種標準スケジュールは3歳からとなっていますが、生後6ヶ月から定期接種として接種可能です。全国で生後6ヶ月から接種開始する医療機関が増えてきています。その理由として、2009年に高知県で1歳児、2011年に沖縄県で1歳児、2015年に千葉県で生後11か月児と3歳未満での日本脳炎発症例があること、生後6ヶ月から打っても抗体の上がり方には問題がないことがわかってきたからです。現在のところ兵庫県が日本脳炎発症の高リスク地域ではありませんが、地球温暖化や人の移動の増加からいつでもリスク地域になり得ます。兵庫県内では2013年に5歳児ですが発症例があります。

6ヶ月から打つメリットとして

- ・ 早期に抗体獲得ができる
- ・ 3歳という注射に恐怖を持ってしまう年齢を避けられる
- ・ 打ち忘れることがなくなる（日本脳炎は結構打ち忘れが多いワクチンです）
- ・ 乳児期の方が母親も時間の調整がしやすい

があると思います。デメリットは今のところ見当たりません。

上記理由から当院でも生後6ヶ月からの接種を勧めていきます。今までの予定通り3歳での接種でも問題ありません。上記を読んで早めに接種希望する方はスケジュールを組みますので受診の際に母子手帳を持参しご相談ください。